



# JR発足35年！黒字の証明！！

国鉄改革とは何であったのか。この命題に即答できる世代が少なくなる中で、2022年4月1日、JR東日本は発足35年を迎えた。JRの前身である国鉄の赤字は、第二次世界大戦後の引き揚げ者の採用で62万人まで膨れ上がった職員の給料、退職金と年金に加え、我田引鉄“とも揶揄された採算を度外視した赤字ローカル線の建設という構造的な問題であつた。国鉄の赤字額は1日あたり47億円にまで達していった。

しかし、当時の国鉄当局内部でも政府が押し進めようとする改革に「反対」との声は根強く、国鉄改革が前途多難であつたことは言うまでもない。

労働組合も無縁ではなかつた。「分割・民営化」に「反対」との声は職場に渦巻いていった。しかし、赤字を理由に鉄路が奪われる。大量に生み出された余剰人員。そして雇用不安。この現実には職場は暗いムードに覆られていた。

その時、立ち上がったのが、対立を繰り返して来たいくつもの労働組合である。この現状を打破する。「職場と仕事と生活を守る」ことを基軸に鉄路の復権を勝ち取る。その道がたとえ茨の道であろうとも。その意識の転換は並大抵のことではなかつた。

その結果、JR東日本の予想された赤字は、「この会社を良くしたい」という組合員の職場からの実践によって、黒字基調で推移した。労働組合が「何でも反対」という不毛な議論から脱却した瞬間でもある。

## 新生展望

「会社の言いなりにはならない」「モノ言「労働組合」への挑戦であり、その建設的な政策論争が今の会社の礎を築いたことは間違いない。

しかし、「企業の寿命30年説」にあるように、企業には発展期、成熟期、そして衰退期がある。JR東日本は未知のコロナウイルスによって再び赤字へと転落した。この現状を打破する。私たちの再挑戦である。

私たちは社会の構造変革に対し、「政策集団」として総決起しなければならぬ。

2月24日、ロシアはウクライナへの侵攻を開始した。ロシアの蛮行は、ウクライナという主権国家に対するあらゆるさまざまな侵略行為であり、断じて認められることは出来ない。

一方、NATOに加盟した旧ソ連の国々はロシアに照準を向けたミサイルを配備する。NATO加盟を目指すウクライナ問題は東西冷戦の対立構造の再燃であり、第三次世界大戦前夜でもある。

また、日本も初となる紛争国への防弾チョッキ供与に加え、国是の非核三原則を飛び越え、米国の核兵器を共同運用する「核共有」議論を持ち出した。

改革35年。戦後77年。私たちがたたかわない限り、平和・人権・民主主義も仲間と家族の生活も守れない。過去の教訓を活かし、未来を切り拓くためにたたかおう！……(Y)

# 鉄路を守る！仲間たちよ起ち上がれ！！